

平成27年11月1日
今週のベストショット



青松園A 三苦ホーネット 対 新町ウインズ

勝った方が優勝の最終戦、見事9-2でウインズを下しガッツポーズのホーネットナイン。

写真：レッドサンデーズ 八島久徳

青松園A 準備と練習に裏打ちされたホーネットの優勝で幕。

三苦ホーネット（11勝1敗1分）502002 9 矢野○-広木
新町ウインズ（10勝3敗）000020 2 藤田●-今林

HR：今田（三苦ホ）桐島（新町ウ）2BH：三浦、広木（三苦ホ）

この試合に勝った方が平成27年度WSLチャンピオンとなる一戦は、三苦ホーネット矢野投手、新町ウインズ藤田投手の両エースの先発で幕を開けた。一回表ホーネットは、先頭の稲葉選手が四球で出塁すると、二番山崎選手がセンター前で無死一二塁。気合の入った藤田投手の前に二死二三塁となり五番松尾選手の当たりはライトへふらふら上がる。これをウインズ松岡右翼手がグラブに当てるも適時エラーとなり、ホーネットが2点先制。更に四球を挟んで、七番今田選手の当たりは左中間を真っ二つの3ランHRとなり計5得点。一方ホーネット矢野投手は準備万端絶好調。先週の不在を取り戻すかのように四回までパーフェクトピッチングを披露。迎えた三回表ホーネットは、三番矢野選手が四球で出塁すると、ホーネット朝川コーチは四番広木選手にバントのサイン。これはキャッチャーフライで失敗するが、その1点を取りに行く執念は続く松尾選手のライト前、今田選手の四球となり、二死満塁で八番三浦選手に。三浦選手の放った打球は左中間への2点タイムリー。一矢を報いたいウインズは五回裏、四番藤田選手が四球で歩きパーフェクトがなくなると、五番桐島選手が左中間を抜くHRでノーヒットノーランも打ち砕く。しかし得点シーンはこれだけ。六回表ホーネットは、四番広木選手の2点タイムリーで点差を広げる。最終六回裏、ウインズは一番長岡選手が内野安打で出塁するも、最後はエース対決で矢野投手がウインズ四番藤田投手を見事三振に打ち取り、三苦ホーネットが平成18年以来9年ぶり2回目のWSLチャンピオンに輝いた。（記事、写真：レッドサンデーズ 八島久徳）



試合前の握手。両チーム健闘を誓う。



ホーネッツ先攻で試合開始。審判はレッドサンデーズ。



新町ウインズ先発、藤田征司投手が吠える。



三苦ホーネッツ先発、矢野義幸投手が四回までパーフェクト。



一回表、二番山崎選手が中前打で無死一二塁とする。



二死二三塁から五番松尾選手の右飛が適時エラーを誘う。



追い打ちの3ランを放った七番今田選手。



今田選手（左）と堺一壘コーチ（右）



二回裏、左中間の当たりで激突するも松尾左翼手が好捕。



激突した両選手も怪我がなくて一安心。



四番にもバントで勝利への執念を見せる朝川三塁コーチ。



三回表、二死満塁で2点適時打を放った八番三浦選手。



五回裏、四球で初出塁の藤田選手を一塁に置いて、



続く五番桐島選手が左中間へ2ランを放つ。



パパのHRを一家で祝福。



みどりさん(井手選手夫人)貫録の登場で優勝への準備万端。



六回表、代打でライト前を放つ「ミスター」こと永島選手。



二死満塁でダメ押し打を放つ四番広木選手。



最後の打者、藤田選手を三振に打ち取り試合終了。



選手全員と握手を交わすホーネッツ中村監督。



ホーネッツ中村監督、9年ぶり感激の胴上げ。



完投勝利を挙げたホーネッツ主将・矢野投手の胴上げ。

青松園B 両投手好投で魅せるも、勝敗は悪送球にて決着

雁ノ巣ライナーズ (10勝3敗)	1 0 0 0 0 0 1	2	有馬○—鳥越
奈多サンデーズ (6勝5敗2分)	0 0 0 0 0 1 0	1	塚本●—野々下

3BH: 田中(俊)(奈多サ) 盗塁: 明瀬(航) 2 (雁ノ巣)

雁ノ巣ライナーズは初回、先頭の明瀬(旭)選手が出塁し、PBで無死二塁のチャンスを作ると、三番中口選手の中前適時打で先制。一方奈多サンデーズも先頭川上選手が四球で出塁し、送りバントで二塁に進めるも無得点に終わる。二回以降両チーム共にヒットやエラーなどでランナーを出すものの、両投手好投の前に後一本が出

ず無得点のまま回を重ねていく。試合が動いたのは六回裏、サンデーズ先頭の田中（俊）選手が上手く捉えた打球はライトへの大きな当たり。ライトのまずい守備もあり一気に三塁へ。続く五番野々下選手はきっちりとライトへ犠牲フライを放ち同点に追いつく。なおも六番宮口選手が相手エラーで出塁し、押せ押せムードで七番塚本選手へ。しかしショートライナーWプレーで逆転のチャンスを潰す。ピンチを乗り切ったライナーズは、七回一死から七番明瀬（航）選手が内野安打で出塁し、すかさず盗塁を試みる。ここで野々下捕手の二塁への送球は大きくそれてしまい明瀬（航）選手は俊足を活かして一気にホームに生還。この一点が決勝点となりライナーズが最終戦を勝利で収めた。（記事、写真：奈多クラブ 吉田貴史）



最終戦、試合開始。



奈多サンデーズ先発の塚本投手。



一回表、先制のホームを踏むライナーズ明瀬旭選手。



雁ノ巣ライナーズ先発の有馬投手。



送りバントを決めるサンデーズ二番の木下選手。



怪我を押しての出場もきっちり仕事をするあたりはさすが田中俊弘選手。



六回裏、サンデーズ同点のホームイン。



七回表、ライナーズ七番明瀬航選手が間一髪セーフ。



明瀬航選手の二盗に野々下捕手が悪送球。



明瀬航選手が一挙にホームを陥れる。これが決勝点。

第25週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第25週、11月1日は平成27年度最終戦2試合が行われました。

青松園Aの三苦ホーネッツ対新町ウインズ戦は、優勝に対する意識の差が試合前から如実に出た試合だった。昨年プレーオフで涙を飲んだ苦い思いがホーネッツの朝6時から最終戦に向けた練習・準備に見て取れた一方、ウインズは主力選手の準備不足が初回の投球・守備、四回までパーフェクトに抑えられた攻撃に出ていた。久しぶりの優勝争いと言ってしまうえばそれまでかもしれないが、もっと手に汗握る接戦を期待して、朝7時に青松園に足を運んだ他チームの選手も多かったはずだ。試合は初回の5点で決まったと言っても過言ではない一方的な展開で三苦ホーネッツが9-2で9年ぶり2回目の優勝を飾った。奇しくもホーネッツは11勝1敗1分と昨年と全く同じ成績だった。

青松園Bの雁ノ巣ライナーズ対奈多サンデーズ戦は、ライナーズが初回三番中口選手のタイムリー二塁打で1点を取ると、その後投手戦の様相。六回裏サンデーズ四番田中選手の三塁打と犠牲フライでやっと追いついたが、七回表、その犠牲フライを打ったサンデーズ野々下捕手の悪送球で一塁ランナーの明瀬航選手が一挙にホームを駆け抜け勝ち越すと、有馬投手がサンデーズ打線をわずか3安打に抑え2-1でライナーズが最終戦を飾り、ウインズと並んで10勝3敗の3位で27年度を締めた。

平成27年度もこれで全日程を終了。今年は雨による中止が少なくここ2年間12月までずれ込んだ日程も11月1週目で終了することが出来ました。

各表彰チーム、タイトル、ベストナインも11月7日の執行部会議で決定しました。

ベストナインの選出では、あの選手が惜しくも涙を飲むことに……。さて誰でしょう？

平成27年度のベストショット大賞は、八島の独断で決定します。

そして今年で三年目となる「激闘の記録」映像もほぼ完成しました。毎週送られてくる写真の量も年々増えて、15分の大作となりそうです。

ちなみに送られてくる画像の中には、画素が足りないものやピンボケ、画角の悪いものも多く、各編集部員さんにおかれましては、もっと写真を撮る位置や角度、逆光などを考えて欲しいものです。

そして、やはりカメラの性能差は如何ともしがたく、スマートフォンなどで撮った写真ではダメダメです。これはチーム内で一眼レフなど最低でも10倍ズームぐらい備えたカメラを持っている人に借りるなどして、高画質な写真を送って欲しいです。

次回からは、自分がこんな写真を撮ってもらいたいと思う写真を送って下さい。

HPの試合速報に載せる小さな写真では何とか誤魔化せても、激闘の記録映像のスライドでは使えない写真は多いのです。

11/8から野球のプレミア12が札幌ドームの対韓国戦で始まり、侍JAPANは見事5-0で白星発進です。11/5・6に福岡ヤフオクドームで行われた強化試合からのいい流れを継続できましたね。このまま優勝して、野球・ソフトボールのオリンピック復活の弾みとして欲しいです。

ラグビーWカップで盛り上がったところに7人制ラグビー男子もオリンピック出場を決めました。女子も東京ラウンドで優勝すればオリンピック出場となります。

こちらも2019年のWカップ日本開催に弾みをつけて欲しいですね。